

# 学思行



61回生1年宿泊行事  
『京都歳時記』  
和菓子作り体験より

9月23日に旧職員の乾 正学先生が病気で亡くられました。49歳でした。

乾先生は神戸大学附属住吉中学校・中等教育学校に8年間勤められ、58回生と61回生、62回生、中等3回生に関わり学級担任や進路指導部長で学年を支えてくれました。研究部長として研究活動を推進し、現在のkobeプロジェクトの基礎を築かれました。在任していた8年間はずっと私と同じ学年で、いつも私（石丸）を励まし、支えてくれた友でした。ここに哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りします。

○乾先生が本校から離任される時、3回生（1年生）に送ったメッセージです

「わかる！できる！笑いがある！」授業を目指して3回生の皆さんとこの一年、楽しく授業を行うことができました。その授業の中で、豊臣秀吉の親友であり、彼を生涯支え続けた前田利家を描いたDVD映像を覚えていますか？その利家が秀吉に向かって言い放ったセリフに、「友を支えるのは、当たり前のことだ。秀吉、生きるとは、心に富を蓄えることではないのか！」というのがありました。この利家のセリフには、戦国のみならず現代でも人が本当に幸せに生きるためのヒントがこめられているように思います。

皆さんにも、利家のような友と出会ってほしい。そしてそのような友と出会えるために、自分自身がどのように生きればいいのか？を問い続けてください。2年生になって一回り大きくなった皆さんを楽しみにしています。（社会科 乾 正学）

○乾先生と相談して思春期の子育て指針を学年通信（3回生『立』より）にまとめました

「土の父と天の父」

「土の父」とは生きるために食べさせる親としての役割、「天の父」とは人生観や親の歩んできた生き方を伝える役割を意味している。親が確固とした自分の世界を持っていることがとても大事である。親がしっかりと自分の世界を持っていれば、子どもには子どもの世界があるということが、おのずと分かってくる。

「Que sera sera（なるようになる）」

便利な物が増えすぎて、思い通りにいくことが多い時代である。少しくまかないだけで、危機感を持ってしまう人がいる。自分の人生と子育ては思い通りにいかないもの。「絶対に思い通りにいかない」と達観すべき。

「ハードルを親が越えてしまわない」

失敗しないように、困らないように、なんでも大人がコントロールしてしまい、子どもが自然に力をつける機会を大人が奪いすぎている。子どもの悩みや苦しみを、辛抱して見守っていくことが必要。

○乾先生の著書

「中学歴史 生徒が夢中になる！アクティブ・ラーニング&導入ネタ80」（明治図書）

「わかる！できる！笑いがある！協同学習で創る中学歴史授業のヒント」（明治図書）